

C : 審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A:自己評価シート」、「B:相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	多頭飼育崩壊等の不適切飼育防止の取り組み事業		
事業開始年度	令和7年度～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	WAN'S LIFE 湘南里親 NPO 法人平塚のら猫を減らす会	担当課名	環境保全課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にしたい点など

- ・難しい活動だと思うが、広報に努めてまわりの理解を得つつ、具体的な対応をすすめている。
- ・2つの団体がお互いの強みを活かしていることや庁内でも複数の課の連携が生まれて新しい取り組みに発展していることが伺われ、協働の好例として非常に評価できます。
- ・今回は環境保全課が担当になりましたが、今後複雑な課題に取り組む場合には複数の課が連名で担当することがあって良いと思います。
- ・「ペット情報シート」は見やすく親しみのあるものに仕上がりました。災害時のペット情報を確認するツールとして応用もできそうですね。
- ・民生委員、児童委員とつながったのはよかったと思います。
- ・「不適切飼育を予防する・解決する」という共通認識のもと、適切に役割を分担し、事業を計画的に進められた好事例だと思います。
- ・団体の皆さんの動物愛護や環境衛生に関する豊富な知見と、行政の連携（環境部と福祉部）が相乗効果をもたらし、その結果が今回の成果として表れていると思います。
- ・団体と行政が同じ問題解決に向かってお互いの長所を生かして一つになって取り組んでいる姿勢はまさに協働事業のお手本となるモノだと感じた。
- ・今年度は目的達成に向けた具体的な取り組みをされたことはとても素晴らしいと思った。また、それによりこれまで想定していなかった新たな問題点（飼い主の生活状態など）が見つかった事は、とても大きな収穫だったのではないだろうか。
- ・情報カードの案内に「飼い主が居ない間にお世話をしてくれる人や、飼い主に代わってペットを一生大事にしてしてくれる人を、見つけておきましょう。」のメッセージはとても良いと思います。

・不適切飼育も予防が大切であって、短期的な入院等ならペットホテルにお願いする、このためにペットホテルに慣れさせておく、などの気づきを飼い主に与える取組をさらに充実させてほしいと思いました。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

・福祉分野との連携については、着実にすすめていると思うが、在宅継続を実現できるように、民生委員・児童委員に加えて、さらに社協や市役所の地域福祉担当が高齢者本人に対する本格的な支援を担う流れをつくる必要があると思われる。

・今回は入所に至った人が多いが在宅での生活を取り戻す流れを地域福祉担当とともにつくるのが重要と思われる。なかなか難しい取り組みであるが…。(老人ホームへの入所を否定しているわけではない。)

・一時保護対応の回数が予算と決算の差異の主たる原因だと思いますが、1回の一時保護に関する支出が少なすぎませんか。報告書から読み取れる一時保護の状況では対応にあたった方の負担が大きかったのではないかと思います。なかなか金額換算が難しいでしょうが、負担に見合う支出を計上すべきかと思います。

・今回の事業で獲得したつながりを切らさずに地道に根気よく予防啓発活動を続けていて欲しいです。

・今後、本事業を委託事業にする際には協働の経験を活かして無理のない仕様で臨まれることを期待します。

・協働後のお金の問題を考えて、今年度はがんばりましょう。

・行政の支出は大切。そのとおりです。

・地域を巻き込むことも必要。

・事業の継続性を考えるとき、財源確保の面からも神奈川県にも関わっていただけると良いと考えます。

・今後、この事業を続けるにあたり、飼い主の生活困窮支援も視野に入れていかななくてはならないと云う福祉の面からのアプローチを組み入れる事で、更なる問題解決の推進力が増すことを期待します。

・委託事業へ移行できるとよいのですが、難しい点もあると思います。

・動物行政を所管する県との連携や協力、近隣市町や県内市町村で県への要望なども検討していると思いますが、こうした努力を続けている(が、県が応じてくれない)状況なども委託事業化への理由になるのではないのでしょうか。

C：審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A：自己評価シート」、「B：相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	市立学校教職員へのリトミックの周知普及と活用支援事業		
事業開始年度	令和7年度～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	あいあいリトミック	担当課名	教育研究所 子ども教育相談センター

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にしたい点など

・教育現場がなかなか受け入れにくい状況の中で、実行したことはまず評価することが必要と思う。

・現場の教員にリトミックの実際を体験してもらうことができたのは成果だった。

・こどもの笑顔、大切です。よかったです。

・たねまきができたならよかったです。

・これまで学校や教育委員会が行ってきた教職員向けの研修とは違った、新しい試みであり、学校では気づきを得られたのではないかと思います。

・子どもたちが集中してリトミックに取り組んでいたことや、参加した先生から「うちの学校にきてやってもらいたい」という声もあったということは、成果（効果）としてとらえられると思います。

・行政がこの取り組みに参加する事で学校側の事業に対するハードルは下がったのではないかと思います。

・リトミックの楽しさを児童が体験できたことはとても良かったと思います。この事業をきっかけにリトミックを体験することができる児童が増えるとよいと思います。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

・教育現場において急速に広げていくことは難しく、また、受け取る立場の教育の現場も様々な変化を求められており、そう簡単にはすすめられない。一つずつ増やし、児童の変化の実感を教員と共有することが期待される。

・研修の回数が1回ではなく、学校を変えて2、3回行えばよかったですと思います。

・研修後のアンケートは感想だけでなく、現場の先生方のニーズを具体的に聴取できればよかったですと思います。もう少し突っ込んだ振り返りができると良かった。

・制作された動画は研修の「記録」のように見えたが、動画制作の本来の目的はリトミックを知らない教員に対してリトミックを「解説」すること、ではなかったか。

・この事業における教育研究所の役割がよく見えなかった。

・動画配信はモザイクもあり、あまり意味がなかったのではないか。

・地域団体を迎えての教職員への研修会が必要だと思います。

・目標の共有ができていなかったこと、その理由は何なのか振り返ってください。

・必ずしも協働という形ではなくても、教育委員会（あるいは学校）と連携して子どもたちのために活動を行っていただけたらと思います。

・活動の成果や効果の確認が目視出来ない難しい事業なので1校だけではなく複数校での活動の反応を検証できたら、この取り組みの評価がより正確になったと思う。

・子どもたちの健やかな成長の為のリトミックだと思うので直接子供たちにアプローチできる環境作りができれば、その効果も大きいと思う。

・実施時期が6月で暑くて会場を変更した等、苦労があったことがわかりました。こうした経験も今後の様々な取組の参考になると思います。

・民間と取り組む協働事業を新しい施策のチャンスととらえて、今後も活用してほしいと思います。